

## サヤエンドウ（秋まき）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
作 型												
主な作業	誘病 引害 虫 妨 除			収 穫						播 種		支 柱 立 て

サヤエンドウ マメ科、原産地：中央アジアから  
中東

作物名 サヤエンドウ

学 名 *Pisum sativum* L.

作 型 秋まき

### 技術体系

#### 1 作型の特徴

エンドウの中心的な作型で、適期播種と寒害防止に努めれば作りやすい作型である。

#### 2 適応地域

根は深根性で酸素要求量が多いので、滞水しない排水の良い圃場を選ぶ。特に水田の場合は深耕し、高畦栽培を行うなど排水対策を十分行う。また、日射量が少ないと花の付きが悪くなるため、日当たりのよい圃場を選ぶ。

#### 3 栽培条件

##### (1) 温度

発芽適温は18～20℃、生育適温は10～20℃、開花結実適温は15～20℃である。-1℃では落花など低温障害が発生する。また、25℃以上の高温では結実障害が発生し、生育も軟弱徒長となり品質収量が低下する。

##### (2) 土壌条件

エンドウの根は他の作物に比べて酸素要求量が多いので排水良好な圃場を選ぶ。酸性土壌に弱いため必ず石灰を施し、pH6.5～7.0程度に矯正する。連作障害が発生しやすいため連作地への栽培は

さける。

#### 4 経営目標

- |            |              |
|------------|--------------|
| (1) 収量     | 0.8 t / 10 a |
| (2) 投下労働時間 | 340時間 / 10 a |
| (3) 所得率    | 55%          |
| (4) 経営規模   | 20 a         |

(家族労働力2人の場合)

### 栽培技術

#### 1 品種と特性

「ニムラ赤花」

生育旺盛で多収種である。双莢性が高く莢幅1.8 cmで厚味のある良形種である。

「オランダ」

生育旺盛で着莢は複花性の豊産種である。12～13節目から良莢が収穫できる秋まきに最適種である。

#### 2 圃場

##### (1) 準備

圃場は連作地を避け、排水の良い肥沃地を選ぶ。日射量が少ないと花が付きにくいいため、日当たりの良い場所を選ぶ。畦巾120 cm、株間30 cm、一条播きとする。

施肥量 (Kg / 10 a)

	N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O
基 肥	7	15	7
追肥	10	0	10
全量	17	15	17

## (2) 播種

播種量は10a当たり3～4ℓを準備する。種子は水に2～3時間浸漬し、十分種子に吸水させて播種する。播種時期は11月上旬～下旬で、播種は1ヶ所3粒、2～3cm程度の覆土を行い、鳥が食べないように防鳥ネットで覆っておく。

## (3) 間引き

本葉2～3枚時に1本に間引きをする。

## (4) 水分

土壤が多湿の場合は立枯病が発生しやすいため、降雨時の排水には十分注意する。

## (5) 支柱立て

本葉5～6枚頃巻きひげがでてくるので、支柱をたて誘引用の網を張る。この作業が遅れると株元から折れ生育が悪くなる。

## (6) 誘引

草丈が伸びると折れたり倒伏しやすいため、テープと網で挟むように誘引する。

最初は草丈40～50cm伸びたとき、地上30cm位の所をテープで挟み以降伸びにあわせて早めに行う。2月までは生育が遅いが3月には急速に生育が進むので誘引の遅れがないようにする。

## (7) 温度

生育適温は10～20℃、着花結実適温は15～20℃で、着莢肥大最低気温4～5℃である。－1℃になると落花などの低温障害が発生し、25℃以上の高温では結実障害が発生する。

## (8) 追肥

追肥時期が遅れないようにする。追肥が遅れると収穫期の最も養分を必要とする時に養分不足となり、莢の色が薄く、品質・収量とも低下する。追肥は、開花直前から開花期にかけて、2回に分けて施肥する。

## (9) 病虫害防除

立枯病が発生しやすいため、連作をさける。やむをえず連作をする場合は、土壤消毒を行う。病害では、うどんこ病、褐斑病、褐紋病、根腐病、モザイク病等、害虫ではヨトウガ、アブラムシ、ハモグリバエ等の発生に注意し、適期防除に努める。

## (10) 収穫、出荷

開花後20～25日後莢が肥大充実し、莢の中の実が外から見て十分ふくらんだ頃が収穫期で、収穫期間は4月～6月である。収穫は株に負担を与えないように、こまめに行い、穫り遅れのないようにする。